

2023 年 8 月 14 日

一般社団法人 日本船主協会

埼玉県の小中学校教員を対象に海事講座・海事施設見学会を実施

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を学校教育に取り入れていただけるよう、学校教員を対象とした海事講座やコンテナターミナル等海事施設の見学会等を実施しております。

今般、当協会は、8/9・10（水・木）に、埼玉県内小中学校の社会科教員を対象とした海事講座および海事関連施設等の見学会を実施しましたので、その模様をお知らせいたします。

1. 海事講座の実施（8/9、埼玉県社会科教育研究会約 25 名を対象）

同研究会の研修会の機会を捉え、春日部市立南桜井小学校にて海事講座を実施しました。講座内では、海運が日本の貿易量の 99%以上を担っている事をはじめその役割の重要性について説明した他、製品輸送の例として、自動車およびコンテナの輸送について詳しく紹介しました。

さらに、埼玉県の輸出入貨物の 7 割以上（重量ベース）で東京港が利用されている事を伝え、日々の暮らしに海運や港湾といった海事産業が密接に関わっている事を強調しました。

参加した教員からは「埼玉県内には海が無いので貿易手段として海運が連想しづらかったが、今回の講座を通じてその重要性が良く理解できた」といったコメントが寄せられました。



当協会説明の様子

2. 海事講座および海事関連施設の見学会 (8/10、埼葛社会科研究会約 20 名を対象)

東京都港湾振興協会、商船三井、宇徳ならびに東京税関にご協力いただき、海事講座に加え、TOKYO ミナトリエや東京港大井コンテナターミナル等の海事関連施設の見学会を実施しました。

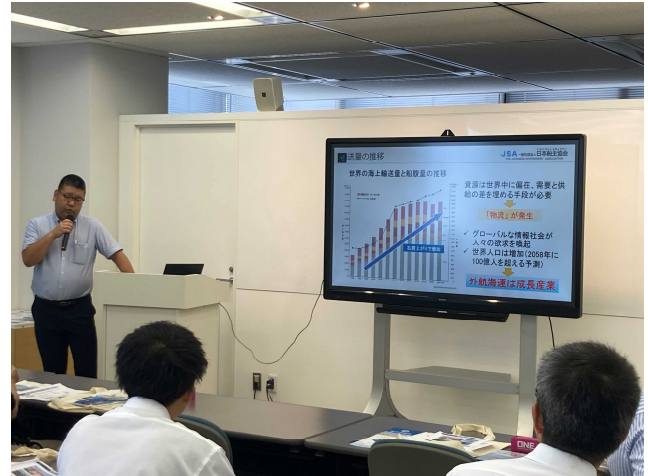
(1) 海事講座および TOKYO ミナトリエ見学

まず、TOKYO ミナトリエにて東京都港湾振興協会の担当者より、東京港の概要（取扱品目、貿易額）や港湾施設の高潮等災害対策について映像とともに説明がありました。続いて、当協会より海運が担う役割や重要性について紹介した他、海上輸送と航空輸送を比較した際の輸送費の違いや環境負荷低減に向けた各種取組等について説明しました。

その後、担当者より案内を受けながら、TOKYO ミナトリエ内を見学しました。



東京都港湾振興協会ご説明の様子



当協会説明の様子



TOKYO ミナトリエ見学の様子

(2) 東京港大井コンテナターミナル見学

その後、東京港大井コンテナターミナルへ移動し、商船三井ならびに宇徳の担当者より、コンテナターミナルの概要、業務内容や各種荷役機器等について動画も活用しながら説明がありました。教員からは港湾混雑への対応や施設の災害対策等に関する質問が挙がり、担当者が夫々丁寧に回答しました。

また、ターミナル内をバスの車窓から見学した他、ターミナル全体を一望できる社屋屋上からの見学も実施しました。見学当日は、ONE（オーシャンネットワークエクスプレス）運航のコンテナ船が寄港しており、参加した教員は施設や船のスケールの大きさに驚いた様子でした。



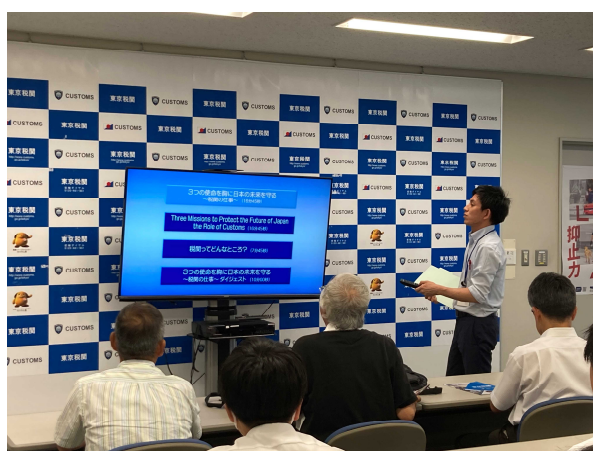
宇徳ご説明の様子



社屋屋上からのコンテナターミナル見学の様子

(3) 東京税関見学

最後に、東京税関を訪問し、担当者から税関の役割（関税等の徴収や違法貨物の取り締まり等）の他、業務円滑化の例として輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）について説明を受けました。その後、実際の通関業務の様子や貨物検査場、税関の歴史等を紹介した「情報ひろば」を見学しました。



東京税関ご説明の様子



情報ひろば見学の様子

参加した教員からは「実際に輸送の各現場に立ち会ったり、説明を聞いたりすることで、海外から日本に運ばれ手元に届くまでの物流の流れが理解できた」「是非とも子どもたちにも各施設を見せてあげたい」等のコメントが寄せられました。

当協会は引き続き、教員への海事講座、見学会および子どもたちへの出前授業等を通じて、海事産業がより学校教育に取り入れていただけるよう各種広報活動に注力してまいります。

以上